

Nature of Kagoshima 43: 484-487

鹿児島県昆虫同好会

1952年に設立された鹿児島昆虫同好会は、2016年も活発な活動を行うことができた。1月下旬の大雪・低温の影響でどのような1年になるか心配していたが、虫たちは長い歴史の中で何度も経験してきたのであろうか、多少の影響は見られるものの、概ね平年に近い姿を見せてくれた。彼らの隠れた一面を見いだすことに興味関心を持つことが、身近な昆虫の記録を蓄積していくという、鹿児島昆虫同好会のモットーにつながるであろう。

以下、2016年の活動を振り返りながらまとめてみた。

1. 鹿昆 10 大ニュース

鹿児島県の虫の状況を概観するために例年まとめている10大ニュースは、以下の通り。

- (1) 鹿児島市内で、九州本土にはいないはずのアカボシゴマダラ奄美亜種が採れた
→移入か自然飛来か、どちらにしても今後とも意識して注意することが必要であろう。



鹿児島市で採集されたアカボシゴマダラ（塚田 拓採集）

- (2) 鹿児島県内で2000年以降2頭しか記録がないタガメが採集された
(3) 大寒波・大雪の影響で昆虫に異変があった
・第1化のナミアゲハ、モンキアゲハ、カラスアゲハが少なかった。
・チャバネアオカメムシやツヤアオカメムシが今年は少なかった。

- (4) 大寒波・大雪を乗り越えた南方系の昆虫が目立った

- ・クロボシセセリは鹿児島市内でも健在である。
- ・ツマベニチョウは春から南薩・鹿児島市内に見られた→夏以降は少ない(猛暑のせい?)。

- (5) ミカンコミバエが奄美大島・徳之島・屋久島に再侵入したが、根絶された



2016年1月24日の大雪



ミカンコミバエ



川辺町で採集されたベニモンコノハ（橋口優平採集）

- (6) ベニモンコノハが川辺で採集された
→松元大昂君が2009年に採集して以来の、本土での記録である。

(7) キオビエダシャクが増加傾向（個体数、発生地域数）

→ 来年は寄生者などの調査が必要である。

(8) ツマベニチョウの蛹，黄色い個体が観察された

・はじめに緑色だった蛹が，周囲が黄色くなるのと合わせて色を変化させた。

→ これは検証すべき現象である！

(9) 湧水町栗野の調査では今年もウスイロオナガシジミが確認できなかった



湧水町での調査参加者（2016年6月26日）



アオハダトンボ

(10) スズメバチが2年連続で少ない
（番外編）

○アオハダトンボが北薩地域でかなり広い範囲に生息していることが分かった

○霧島山系鹿児島県側でアカシジミが6頭採集された

○クロボシセセリが分布拡大中（南薩，桜島）

○迷チョウの様子

・カバマダラが南薩，いちき串木野市，鹿児島市内で発生

・ウスキシロチョウが今年は多く，発生もしているようだ

・リュウキュウムラサキ，メスアカムラサキは少数が飛来した模様

・シロオビアゲハ，ツمامラサキマダラ，ヤエヤマムラサキなども採集された

・ホシボシキチョウが来なかった

○春から夏にかけて，北上するアサギマダラの数が少なかった。

○クマゼミの減少する時期が早かった

・鹿児島市内では例年8月下旬，今年は8月中旬，猛暑のせいかな？

○10月上旬，佐多岬にクロイワツクツクが見られなかった

→ 台風の影響かな？

○環境未来館での例会が本格的に始まった

○カオマダラクサカゲロウ，南さつま市金峰町に8月末に大量飛来

→ 朝鮮半島や中国北東部など大陸からの北西風が運んできたと推測される。今後大陸からの迷チョウも要注意！

○コムラサキが鹿児島市明和でまだ採れた

→ 鹿児島市内のヤナギの減少が，コムラサキにどのような影響を与えるかな？

2. 大会



大会集合写真（2016年11月19日）

2016年11月19日に，鹿児島市伊敷公民館にて大会を行った。参加者数55人。今年は行事が重なり国分高校サイエンス部による発表がなかったが，一般講演5題に加えて，鹿昆大賞を受賞した高校生以下の部・一般の部の受賞講演が2題あった。また，今回アサギマダラのマーキングのために鹿児島県に来られた三重昆虫談話会の中西元男氏に，特別講演を頂いた。

・「農業現場で活躍する昆虫たち」松比良邦彦

- ・「リュウキュウムラサキを飼育してみよう」二町一成
- ・「カスリドウボソカミキリの生態について」森一規
- ・「ホソバセセリの分布と化性」熊谷信晴・福田晴夫
- ・鹿昆大賞受賞講演
(高校生以下の部)「川辺地域での継続的な観察・採集活動と顕著な記録について」橋口修平・橋口優平

受賞講演(一般の部)「アオハダトンボの北薩での分布解明」大坪修一

- ・「口永良部島で火砕流を生き残ったアリたち」金井賢一・山根正気
- ・特別講演「三重県の蝶の話題ふたつ ～伊勢湾口の蝶と三重県のウラナミアカシジミ(紀伊半島南部亜種)～」中西元男
- ・鹿昆10大ニュース2016

大会会場が変更になるなど一部混乱があったが、当日は年に一度の楽しい集まりを会員が皆で共有できた。

3. 例会

月例会は8回行われた。

- 1月:種子島の昆虫をまとめて(大坪修一)
 - 3月:シーズンイン直前,今年の注目種はこれだ!(一人一話)
 - 4月:ミバエ問題 今と昔(田中 章)
 - 5月:口永良部島に行ってきました(金井)
 - 6月:最近日本から発見された大型ドロバチについて(山根正気)
 - 7月:中止
 - 9月:この夏の成果 発表会(一人一話)
 - 10月1日:アメンボについて熱く語ろう!(中峯・塚田)
 - 10月29日:2016年の10大ニュースは?(金井)
- 4月の「ミバエ問題 今と昔」では、初期の対応がいかに大事かという点の講話があった。10月のアメンボの話題では、近年本県に侵入したトガリアメンボなどについても語られ、あまり注目されてこなかったアメンボについて、

今後注意が払われるようになるだろう。

会誌 SATSUMA の発行と共に、例会は鹿昆の活動を進めていく両輪の1つである。2017年は大隅半島での活動を強化していこうと画策中であるが、大隅での例会が開けるように組織を作っていきたい。

4. 会誌・連絡誌発行

会誌 SATSUMA は予定通りに年間2冊発行できた。

156号, 157号は共に128ページと、会員からの原稿を順調に集めて発行できた。内容も本会のモットーである「身近な昆虫の記録を残していく」に基づき、多種多様な記録を残すことができた。

156号では2015年夏に多かったと思われる黒色アゲハ類(カラスアゲハ, モンキアゲハなど)がどのようだったか、各会員が観察した結果をとりまとめることができた。また、1月の大雪の後に越冬しているクロボシセセリの幼虫記録も掲載した。伊佐市および湧水町でのアオハダトンボの広範囲な分布調査結果は、鹿昆大賞に選ばれた成果である。

157号ではホソバセセリに関する投稿が3題、キタキチョウの幼虫がギンネムの葉を摂食後に死亡する事例、各地で観察された迷チョウの記録、屋久島でのアサギマダラマーキングに関するとりまとめ、2016年時点での鹿児島県におけるフユシヤク記録のとりまとめ、拡大・定着化が懸念されるウリ科作物の害虫:アシビロヘリカメムシの観察記録、三島村黒島での2回にわたるバツタ類の調査記録総括など、2016年に昆虫を調べた結果を速やかに公表することにつながっている。

会誌は会員外にも1冊1,500円で販売。購入はWeb上で昆虫書籍を扱う「六本脚」「南陽堂」を検索し、注文して戴くか、庶務幹事の金井までお申し込みください。

連絡誌アルボは、年4回発行。会務連絡の他、随想や行事案内など、会員間の情報交換・情報共有に役だっている。



会誌 SATSUMA (左) と連絡誌アルボ (右)

5. メーリングリスト (鹿昆 ML)

会員により投稿され、登録者全員に配信されている。ここでは会務連絡の他、身近な昆虫の話題を共有している。会員のみしか投稿・受信できないが、速報性の高い有効な情報交換の手段として利用されている。

6. HP

鹿昆では今年も HP を作成。下記のアドレスか、検索サイトで「鹿児島昆虫同好会」をキーワードで検索できる。

<http://www.synapse.ne.jp/~viola-kk/>

会員外の方も例会に参加して頂けるように、例会や大会の案内など掲載している。

7. 調査会・採集会

アサギマダラマーキング会 (千貫平, 南大隅町)、灯火採集会 (垂水市) は、全て天候不良により中止となった。ウスイロオナガシジミの調査会 (湧水町) は 6 回実施した。

「大隅半島での昆虫に関する活動を活性化させよう」という想いとは裏腹に、2016 年は計画していた行事が天候不良で全て中止となった。2017 年は我々が大隅半島を会場にするだけでなく、大隅半島在住の会員にも運営を手伝ってもらえるように、幹事に若手 2 名を起用した。今後盛り上げていけるように、手立てを講じていきたい。

8. 2017 年の予定

会誌 SATSUMA は例年通り 2 回、連絡誌アル

ボは 4 回発行を予定。

大会は 2017 年 11 月 18 日 (土)、鹿児島市環境未来館にて行う予定で、例会も年 8 回計画している。例会や大会は会員外も気軽に参加できるので、場所や時間など詳細は本会 HP、あるいは庶務幹事：金井まで問い合わせ・ご確認頂きたい。入会をご希望の方は、金井までご連絡ください。詳細をお知らせします。なお、年会費 3,000 円となっています。

本会は小学生から会社員、主婦、学者など多様な会員が集まり、和やかに活動しています。採集して標本にして昆虫の多様性を楽しんでいる会員、虫を写真に撮って写真展に出品している会員、実験観察や調査により新しい知見を得て、それを記録として発表している会員など、活動の内容は様々ですが、どの会員も情報を共有しようことなどでお互いを高めあっています。これらを通して、共通の目標：鹿児島県の昆虫を調べて記録に残そうと活動を重ねて来ています。これからも本会は、生物多様性の維持や保全、将来に向けて、現在の虫たちの記録を蓄積することなどを通して、「鹿児島県県の自然を解明していくこと」の一助となることを信じて活動を続けていきたいと思っています。虫に興味のある方の参加を待っています。

(金井賢一 〒 892-0853 鹿児島市城山町 1-1
鹿児島県立博物館 Tel: 099-223-6050; e-mail:
viola-kk@po.synapse.ne.jp)

Nature of Kagoshima 43: 487-490

鹿児島大学総合研究博物館

2016 年の活動報告

■特別公開「琉球列島最古のハブ属の化石」 1 月 27 日～ 8 月 23 日

沖縄本島で発見したハブ属の脊椎化石を展示しました。

■第 21 回研究交流会「海外遺伝資源に係る生物